

校長の自慢 『きめ細やかな就職指導』

昨年度の本校の就職内定率（学校紹介による就職希望者）は94%、また一昨年は96%でした。では何故、このような高い内定率になるのでしょうか？ それは本校のきめ細やかな組織的取組みがあるからです。

「納税できる社会人を育てる」というのが本校の教育の柱の一つでもあります。大学や専門学校への進学希望者でも、いずれは社会の一員として働くことが求められます。そのため、本校では1年次から計画的にキャリア教育を進めています。その総仕上げが3年生に対する就職指導であり、この指導には小山田進路部長を中心に進路部員と3年学年団が組織的に取り組んでいます。

「おはようございます」「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」という挨拶練習中に

「口角を上げて、もっと笑顔で！」「それで、お客様がまた来たいと思うかなあ」と担任永喜先生の檄が飛びます。夏休み中に行われる就職指導の朝の一場面です。



求人票を分析し、読み取る練習を通して、労働者として職場の環境を把握する指導もしています。ただ単に給料面だけではなく、有給休暇や福利厚生の実態も大きなポイントとして検討しながら、志望する企業を選びます。ただし、いくら書面確認をしても、また担任や進路指導部の先生と相談しても、現場を見なければ、実際の雰囲気はわかりません。ミスマッチを防ぐためにも、本校では必ず応募前職場見学を行っています。生徒は働くかもしれない現場を見ることによって、「就職したい」というモチベーションが上がります。



志望企業が決めれば、面接練習にも本腰が入ります。志望動機や自己アピールは当然のこととしても、細かな仕草や言葉遣いにも指導が加えられます。担任平井先生のシビアな指摘に音を上げる生徒もいます。アルバイトでは通用していることも、社員として正規採用では認められないことを理解させる必要があるからです。タブレットを使ってビデオ撮影し、自分自身の「面接」の様子をすぐに見せながら指導することの有効性を活用しているのは小山田進路部長です。

仕上げは、校長等からの最終面接練習となります。場所は校長室や応接室なので、緊張の度合いが高まります。非日常的な面持ちの生徒たちに厳しいことも言いながら、適切なアドバイスもしなければならぬ重要な役割なので、私自身も心して臨んでいます。

9月16日から就職試験が始まりました。本校生の内定100%を目指して全教職員で後押しています。その結果として、これまでの高い内定率を得ているのですが、私としては全員の内定を心から願っています。

